

日本比較文化学会

2005年8月 No. 30

JACC 比較文化会報

本部事務局 :〒036-8231 弘前市稔町 13- 1 弘前学院大学 文学部
佐藤幸正研究室 Tel.0172-34-5211 内線 216 satoh@hirogaku-u.ac.jp
会長室 会報編集室 :〒379-0124 群馬県安中市鷲宮 3413- 3
NPO法人国際比較文化研究所内 太田敬雄 mtharunac@xp.wind.jp

新任のご挨拶

日本比較文化学会
第4代会長 太田敬雄

猛暑の続く中にありましても、日本比較文化学会会員の皆様におかれましては、研究に、あるいは休養にとそれぞれの夏をお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、私は本年6月に福岡で開催されました第27回大会におきまして、新しい会長に就任させていただきました。役員会では、長時間にわたる議論の後、私は新会長候補として選出され、総会の承認を得て新会長に就任させていただきました。微力ではありますが、芳賀前会長が立ち上げ、育ててこられた日本比較文化学会の理念を最大限尊重しつつ、これからの時代に相応しい学会として会員の皆様に喜んでいただける方向を模索して参りたいと存じます。皆様の叱咤激励を糧としつつ、2年の任期を務めさせていただく所存です。皆様のご協力をお願いします。

この期に少し「日本比較文化学会」の歴史を振り返っておきます。その出発点は1979年1月、前会長の芳賀馨先生のご自宅に6名の研究者が集い、学会設立の草案を練った日にありました。幾度かの準備会を経て、同年6月に「東北比較文化学会」は弘前学院大学で「広く諸文化の比較研究を促進し、学術の発展、文化の交流に資する」ことを目的に設立されました。初代会長は弘前学院大学の山浦拓造先生でした。学会員30数名の小さな学会の発足でした。

1981年の第3回大会において「東北比較文化学会」は「日本比較文化学会」と名称変更し、今日の発展への第一歩を踏み出しました。その後、1986年の大会で大正大学の椎野正之先生が第2代会長に、そして1991年の大会で前会長の芳賀馨先生が第3代会長に就任されました。以来今年の6月まで芳賀会長のリーダーシップの下で発展を遂げ、同時に学術会議への登録等を経て、学会としての姿も整えてまいりました。

最近、折に触れて「比較文化学」とはどのような学問かということが問われています。特に教員免許取得のために「比較文化論」の履修が義務付けられて、この議論は頻繁になされるようになりました。当学会としての「比較文化学」の基本的な認識は、やはり、芳賀前会長が『比較文化学論纂』（開文社、1998）の序説で書かれておられることがそのベースとなるべきでしょう。芳賀先生は日頃からあらゆる学問は比較から始まるとして「比較文化論は認識論を基盤とする」と記しておられます。「対象とする文化相互の異質性の指摘に留まらず、同質的普遍性の認識に至って初めて主題の総合的本質に迫りうる」とし、その上で「比較」と「総合」を二つのキーワードに比較文化学を考察しておられます。私達は時にこの原点に立ち戻って「比較文化」学について議論をしたいと思えます。一方で、その定義そのものが発展途上であるところに本学会のエネルギー源があることも忘れてはならないでしょ

う。

もう一つ、大会などで時々話題になってきたことがあります。それは「誰々の の発表は比較文化研究と言えるだろうか」という類の問いかけです。この問題を考えるために、学問がひたすら細分化されていく中で、各地の大学で「総合科目」がスタートさせた 1970 年代後半の背景を考える必要があります。当学会が発足した頃、芳賀先生ご自身も弘前大学において「総合科目アメリカ研究」、「総合科目演劇研究」などの総合科目を立ち上げられました。その「総合科目」の考え方と比較文化学会の発想には深い関わりがあると私には思われます。異なる学問分野を総合する事によって新しい授業科目を立ち上げるためには、複数の異なる分野の研究者が協力して一つのテーマに迫ることが必要となります。この総合科目では個々の研究者が「総合」の役割を担うのではありません。教員はそれぞれの分野を担当し、学生がそれらを総合することによって新しい分野として身につけていくわけです。比較文化学の場合も同じで、例えどんなに「比較」という研究方法に馴染まない研究であっても、そのような研究を収斂させる事で「比較文化研究」の基盤が出来ていくと考えても良いのではないのでしょうか。やがて、それらの総合への模索の中から「比較文化学」を専門とする研究者も生まれてくると信じています。

このような事を考えながら、私達は日本比較文化学会が当面抱える問題への対応を進めています。会則の見直しや、それにまつわる諸々の課題の処理です。これまでの四半世紀の歴史を大事にしながら、新しい時代に向かっての歩みを大胆に進めて参りたいと存じます。

具体的には、会長就任後、メールと手紙により紙上役員会を 7 月初旬より開かせていただき、会則等検討委員会やホームページ作成検討委員会の立ち上げ、また今年度の暫定予算などについて検討して参りました。日本比較文化学会の発展のために会員各位のご協力をお願いし、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

第 27 回大会を終えて

九州支部長 市川野康

九州支部が担当いたしました第 27 回比較文化学会は、福岡女学院大学において 6 月 1 1 日に開催いたしました。

今大会のシンポジウムテーマは「多文化交流から多文化共生へ」でした。4 名の講師から各自の問題意識の中から生み出された考察を短い時間の中で発表していただきました。藤岡克則講師（国際医療福祉大学）には、留学生と長崎の地元コミュニティの連携についての多文化共生と大学の指導的役割、熊抱ゆかり講師（福岡大学）には氾濫するカタカナ語に対して「歯止め」から「共生」していく状況、三井真紀講師（東京福祉大学）には、多文化社会で逞しく生きていく保育現場の子どもたちの姿、そして最後にスコット・ワトソン講師（東北学院大学）には、日本での異文化体験に基づく多文化共生についてそれぞれ考察していただきました。その後、5 室に分かれて、全体で 20 名の方々による研究発表が行われ、活発な質疑応答のうちに終わりました。

また、特別講演では、「ケニアとの出会い」の演題で、福岡女学院大学学長、齋藤皓彦先生による大変興味深いお話を聞くことが出来ました。

最後に、大会準備から懇親会にいたるまで開催校の南川啓一先生をはじめとする関係スタッフに大変お世話になりました。心から感謝いたします。

第27回大会総会報告

2005年6月11日(土)に福岡女学院大学で開催された第27回大会の役員会・総会では、次の報告や議題が取り上げられ、審議・了承された。

一 報告

1. (1)『比較文化研究』発行について：64、65、66、67号が発行された。
(2)主な送付先：国立国会図書館、Harvard-Yenching Library、郵政省郵務局、論説資料保存会など。
2. 第28回大会について：日時 2006年6月10日(土)
開催校 東京都立航空工業高等専門学校
〒116-8523 荒川区南千住8-52-1
シンポジュームのテーマ 「多文化情報時代の教育」
3. 支部および研究部会報告：各支部報告参照
4. 寄付金について：故中牧泰二会員のご家族から寄付金100万円があった。

二 議題

1. 人事について：2005年度役員人事において、次のように決定した。
会長 太田敬雄(『研究』編集委員長) 副会長 西村清巳、石黒昭博
理事 菊地弘(東北支部長・編集責任者) 野口周一(関東支部長) 山内信幸(関西支部長・編集責任者) 奥村訓代(中国・四国支部長) 市川郢康(九州支部長) 鹿島英一(広域アジア支部長) 芳賀 馨、栗原 靖、飯島武久、早川正信、鈴木瑠璃子、成沢義雄、引地岳雄、佐藤 静、亀田政則、栗原 優(編集責任者) 小林俊哉、佐藤公彦、畠中康男、南井正廣、阿部晃直、井上博嗣、高坂京子、源馬英人、北林利治、山下明昭、南川啓一(編集責任者)(なお、芳賀馨前会長に名誉会長就任依頼中です。)
監事 町屋昌明、斧田好雄 事務局長 佐藤幸正 事務局次長 佐藤憲和
2. 第29回大会について：開催校 東北支部主管 シンポジュームのテーマ (未定)
3. 『比較文化研究』編集・投稿規程について：今回の役員会で提案の予定であったが、時間の都合上取り上げられなかった。
4. 支部合併について：北東北支部と南東北支部との合併が承認された。
5. 会費未納者について：過去5カ年間に渡る会費未納者については、各支部と意見を交換し、処置することになった。
6. 会計報告について：別紙の通り報告があり、承認された。(なお、会計報告については大会で承認された決算報告に加えて、紙上役員会で検討された今年度の暫定予算案と共に報告します。)
なお、決算報告につきましては、「2004年度日本比較文化学会会計の決算を監査した結果、適正であるものと認める。2005年5月28日 日本比較文化学会 監事 斧田 好雄、町屋 昌明」と監査報告を戴いております。

以上

本部事務局だより

1. **入会希望者へ**：本学会に入会を希望する方は本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局に備えてあります。
2. **論文投稿希望者へ**：学会誌『比較文化研究』は年に4回発行しております。投稿をご希

望の方は下記へお問い合わせ下さい。ただしレフリー制を採用し、掲載費用および別刷りは著者負担となります。本冊 10 部までは無料です。論文投稿者は本部会員に限ります。

(3 月末日締切) 〒839-8502 久留米大学御井町 1635 久留米大学文学部市川郢康研究室
内 日本比較文化学会九州支部 電話 0942-43-4411

(6 月末日締切) 〒116-8523 東京都荒川区南千住 8-52-1 東京都立航空工業高等専門学校栗原優研究室内 日本比較文化学会関東支部 電話 03-3801-0145

(9 月末日締切) 〒981-3105 仙台市泉区天神沢 2-1-1 東北学院大学教養学部菊地弘研究室内 日本比較文化学会南東北支部 電話 022-773-3337

(12 月末日締切) 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学文化情報学部山内信幸研究室内 日本比較文化学会関西支部 電話 0774-65-7610

3. 近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介などを『比較文化会報』に投稿希望の会員は次の要領でご応募下さい。(1) 近況報告(130 字以内)(2) 新刊書、編註書の紹介(130 字以内)(3) エッセイ投稿(500 字以内)(4) 支部報告、研究部会報告(1000 字以内) 投稿締切日: 毎年 7 月 30 日(第 1 回締切日)および毎年 12 月 25 日(第 2 回締切日) 投稿先: 日本比較文化学会 〒036-8577 弘前市稔町 13 1 弘前学院大学文学部佐藤幸正研究室 電話 0172-34-5211(代) E-mail: satoh@hirogaku-u.ac.jp

受贈図書

Kodani, Kayo. *Attractive Female Voice*. Eihosha. 2005.

『日本教科教育学会誌』第 27 巻第 3 号(2004 年 12 月) 同 27 巻第 4 号(2005 年 3 月)
同 28 巻第 1 号(2005 年 6 月)

『比較文化研究年報』第 15 号(2005 年 3 月)

古賀元章・川尻武信編著、『税関英語の基本的理解』大学出版、2004 年。

会長室より～紙上役員会を経て

1. 会則等検討委員会について

紙上役員会を経て、次の方々に会則等検討委員会委員をお願いすることになりました。ここでは、会則の見直しを中心に『研究』の投稿規程(今年度大会未提出分)も検討していただきます。委員長: 太田敬雄 委員: 栗原靖(論理学・会長推薦)、佐藤静(心理学・東北支部推薦)、高山有紀(歴史学・関東支部推薦)、南井正廣(イギリス文学・関西支部推薦)、山下明昭(日本語学・中国四国支部推薦)、八尋春海(アメリカ文学・九州支部推薦)。(敬称略)他に会長推薦で法律分野のアドバイザーに、本学会の会員ではありませんが、法律の専門家として村辻義信弁護士をお願いしました。大阪でウェルブライト法律事務所長として活躍しておられますと共に、関西大学法科大学院非常勤講師も務められておられます。

2. ホームページ立ち上げ検討委員会について

ホームページを立ち上げるべきか否かを含めてご検討いただく委員会を立ち上げます。現在、関西支部の長谷部陽一郎(徳島文理大学)、九州支部の鶴田知嘉子(福翔高等学校教員)、関東支部の芳賀晶(コピーライター)の三氏に委員になっていただくべく打診中です。

3. 2005 年度暫定予算について

恒例として大会では決算報告のみで、特に予算は提示しておりませんでした。今年度のように幾つかの新しい事業を考える上では、先ず予算を検討すべきだと考え、次のような予算案を作成しました。2004 年度の決算はすでに大会で承認されたものです。

科 目	05 年度予算	04 年度決算	摘 要
Ⅰ収入の部			
1、資産運用収入			
利子	50	64	
2、会費収入			
一般会員	1,650,000	1,727,000	(330名で算出)
賛助会員	40,000	40,000	
3、事業収入			
『比較文化研究』売り上げ	12,000	12,000	
4、寄付収入			
寄付収入		1,000,000	
当期収入合計 (A)	1,702,050	2,779,064	
Ⅱ支出の部			
1、大会開催費			
開催校受付謝礼		20,000	
27回大会費	300,000	300,000	
2、支部大会開催費			
支部合同大会補助費	40,000	40,000	
3、『研究』発行費			
編集補助費	400,000	400,000	
発送費	360,000	353,107	
故中牧記念出版	600,000		中四支部担当
4、会報編集補助費	20000	30000	
5、管理費			
事務局費	180,000	180,028	
交通費	70,000	73,640	
通信費	80,000	87,580	
事務費	45,000	46,366	
会議費	200,000		会則改定会議
HP立ち上げ経費	300,000		HP外部依頼
同 維持費	25,000		半年分
会費 (学術会議他)	40,000	32,000	
手数料	13,000	13,140	
会費返金		7,000	
6、予備費	200,000		広域 『研究』他
当期支出合計 (B)	2,828,000	1,582,861	
当期収支差額 (A) - (B)	1,125,950	1,196,203	
前期繰越差額 (C)	2,675,514	1,479,311	
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)	1,549,564	2,675,514	

2005 年度暫定予算案について

全体的には昨年度の決算を踏襲する形の予算ですが、新しい支出項目について簡単に説明しておきます。

(1) 2004 年度の決算では収入が約 280 万円、支出が約 160 万円となっておりますが、収入の中に 100 万円の特別寄付が入っております。故人となられた会員を記念する特別なものですので支出の案の中に「故中牧記念出版」とあります 60 万円がこの寄付の主な使途として考え、中牧氏の所属支部であった中国四国支部の奥村支部長に一任します。

(2) 次に、会議費の 20 万円。これは会則等検討委員会の会議のための経費です。基本的にはメールによる会議で検討を進めますが、集まる必要が生じることを考え、計上しました。

(3) HP 立ち上げ経費ならびに維持費につきましては、HP を外部依頼した場合の経費上限と考えられる額を計上しています。30 万円以内で立ち上げる事が条件と考えております。私の原案としましては、会員に依頼して HP を片手間に作成する事の諸々の問題を考慮し、メンテナンスを含めて外部発注を考えております。その点も含めて「ホームページ検討委員会」の判断を待ちます。維持費は外部に依頼した場合(月額 5 ~ 6 千円)で、今年度中に立ち上げたとしても 4 ~ 5 ヶ月と考えて計上しています。通年ですと 7 万円程度になります。

(4) 予備費 20 万円には、広域アジア支部による『比較文化研究』特集号の作成が承認されておりますので、その本部負担金 10 万円を含んで、少し多めに計上しております。

4. 『比較文化研究』等発送について 担当者募集

これも紙上役員会で検討した件です。これまで、『比較文化研究』ならびに「会報」の発送については、太田が理事長を務めます NPO 法人国際比較文化研究所でその任を負ってまいりましたが、今回会長に就任した事で、新たな発送担当者を募集いたします。一つの組織の長が運営する別の法人が経費を伴う業務を担当する事は避けるべきであると研究所の監事にも指摘されております。現在、発送業務を担当して下さる方を募集しています。適当な方が得られ次第、早急に業務を移管いたします。

現在、研究所では発送に関わる印刷費、送料、人件費に加えて総経費の 10 % を事務所経費として頂戴しています。他に、法人の団体会員として年会費 2 万円を学会から頂戴することになっております。移管先においても同程度の経費の支払いを見込んでおります。自薦、他薦いずれでも結構ですので、担当先を会員の皆様でご検討下さい。

太田敬雄

《中牧氏からの寄付をもとにした出版に関するお知らせ！！》

中・四国支部では、故中牧会員から頂いた寄付金を元に、ご本人の意思に従って『日本語教育の周辺』を出版予定です。下記の要領で原稿を募集します。関係分野の論文があればご応募下さい。

原稿締め切り：2005 年 10 月 15 日必着(2005 年 12 月 23 日発行予定)

分量：400 字詰原稿用紙 30 枚以内(図、表含む)(提出は、電子媒体でお願いします。)

募集内容：第 1 章 日本語教育と制度、第 2 章 留学生と日本語、第 3 章 日本事情と日本文化、第 4 章 多文化共生の為の日本語教育。

参加費用：全体費用の 60 万を寄付により賄い、残りを参加者のページ数で割る。

出版形式：比較文化特集号とするか、別枠とするかは未定。

申込締め切り：2005 年 8 月 30 日 088-844-8205 (F 兼) か [takapi924@hotmail](mailto:takapi924@hotmail.com), koku@cc.kochi-u.ac.jp までタイトルと連絡先等をお知らせ下さい。多くの方の参加をお待ちしています！！

高知大学 奥村訓代 2005.7.13.

『比較文化研究 アジア特集号』原稿募集

広域アジア支部では、次の要領で『比較文化研究』（アジア文化特集号）の原稿（印刷原稿とフロッピーの両方）の募集をしています。掲載希望の方の投稿をお待ちしています。

原稿締切日：平成17年10月末日

研究対象地域：アジアとその（広義での）周辺地域

使用言語：日本語（に限る）

形式：『比較文化研究』の最近の号と同じ（ただし、各頁は40字×32行）

投稿資格：日本比較文化学会会員

投稿者負担料：他の支部発行の『比較文化研究』に準じた額

連絡先：九州大学・留学生センター・鹿島英一・kashima@isc.kyushu-u.ac.jp

Tel&Fax(092)642-2146

支部報告

九州支部

1. 第17回九州支部大会が3月5日（土）久留米大学・御井学舎において開催されました。総会では会計報告、事務局の変更が承認されました。研究発表者は次の通りです。

BE GOING TOとBE ABOUT TOに関する一考察 松田敦司（久留米大学大学院前期課程）
映画字幕の社会言語学的分析 八尋春海（西南女学院大学） ラフカディオ・ハーンのローマ字表記について 藤原万巳（久留米大学非常勤） 歯止めが効かないカタカナ語の氾濫 熊抱ゆかり（福岡大学） Is Cultural Variability an Endangered Species: The View from Evolutionary Psychology ローエル・ブルーベーカー（長崎ウエスレヤン大学） 地域づくりに関わる市民学習活動の展開と大学の学習支援 樋口真巳（西南女学院大学） 新資料『台湾適用小学讀方作文掛図教授指針』の日本語教育 何啓華（久留米大学前期博士課程）
「初学生徒教案」に見える唱歌 蔣 小瑩（久留米大学大学院前期博士課程） 特別講演 演題「環東シナ海諸言語の音調」崎村弘文（久留米大学）

2. 事務局が下記に変更になりました。

〒839-8502 久留米市御井町1635 久留米大学文学部市川研究室 tel:0942-43-4411
fax:0942-43-4797 E-mail: ichikawa_kuniyasu@kurume-u.ac.jp

3. 関西・中国四国・九州3支部合同研究会が11月5日に久留米大学において開催予定。
市川郢康

中国・四国支部

1. 中・四国支部では、故中牧会員から頂いた寄付金を元に、ご本人の意思に従って『日本語教育の周辺』を出版予定です。下記の要領で原稿を募集します。関係分野の論文があればご応募下さい。詳細は6ページの記載をご覧ください。

2. 支部大会の予定・発表者募集について：今年も秋に中・四国支部大会を予定しています。（11月の予定）場所や日時はまだ決まっていますが、決まり次第ご連絡致します。ただいま発表者募集中：発表希望者は9月15日までにA4・1枚のレジメをお送り下さい。（追って詳細をお送りします。）連絡先：088-844-8205（F兼）か takapi924@hotmail.com, koku@cc.kochi-u.ac.jpまで、発表者の連絡先と使用機器等をお知らせ下さい。 奥村訓代

関西支部

日本比較文化学会関西支部では2004年度も新たに約10名の新進気鋭の若手研究者が入会し、活発な支部活動を行なっております。10月に中四国支部、九州支部との合同例会が、徳島文理大学香川キャンパスで開催され、関西支部からも多くの会員が参加、発表しました。また12月には関西支部総会が同志社大学今出川キャンパスにて総会が開催されました。同志社大学文化情報学部教授の村上征勝氏による計量文献学についての講演や、若手研究者による映画や文学に関する研究発表といった多彩なプログラムで、約40名の会員が集まりました。3月例会では同志社大学言語文化教育研究センターのアンヌ・ゴノン氏による講演と、映画、言語学の研究発表があり、約30名の会員の参加がありました。本年度も山内信幸支部長のもと、活発な支部活動を継続していきたいと思っております。

1. 12月総会(2004年12月11日 於同志社大学今出川キャンパス)

研究発表: 森ユキエ(同志社大学大学院文学研究科博士課程後期)「『円卓の騎士団』その栄光と没落 マロリー「トリストラム卿の書」より」 林奈美子(同志社大学言語文化教育研究センター嘱託講師)「エレンは<新しい女>か 『エイジ・オブ・イノセンス』における衣服と絵画」 坂本季詩雄(京都外国語大学外国語学部助教授)「映画『ロリータ』に見る詩的映像表現」 講演: 村上征勝(同志社大学文化情報学部教授)「シェークスピアを科学する - 計量文献学の世界 -」

2. 3月例会(2005年3月5日 於同志社大学今出川キャンパス)

研究発表: 森村麻紀(京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程)「覗きの視覚文化 初期映画期を中心に」 山路順子(同志社大学言語文化教育研究センター嘱託講師)「言語政策とグローバル化についての一考察」 講演: アンヌ・ゴノン(同志社大学言語文化教育研究センター教授)「文学と社会学の間」

山内信幸

関東支部

1. 第28回大会について: 2006年6月10日(土)東京都立航空工業高等専門学校での開催予定で準備をすすめています。(〒116-8523 荒川区南千住8-52-1)シンポジウムのテーマは「多文化情報時代の教育」です。例年のように各支部から講師のご推薦を関東支部の栗原優までお願いします。

2. 1月支部例会報告

1月26日(水)高崎市北公民館において支部例会(研究発表会)が開催された。高崎市教育委員会社会教育主事の植原孝行氏より「社会教育の意義について 公民館における社会教育活動に視点を置いて」、東京福祉大学の三井真紀・近藤俊明両氏より「社会福祉系大学における保育者養成課程の課題と取り組み」というテーマでそれぞれご報告いただき、活発な質疑応答が交わされた(参加者は10名)。また例会終了後、有志による新年会も行われ、会員の親睦がはかられた。

3. 3月には東京都立航空工業高等専門学校で支部例会を持ち、次回は10月に育英短期大学での例会が予定されている。

野口周一

編集後記

これまで中澤紀美子、成沢善雄両氏が会報を担当して下さいました。今年度については、中澤氏は退会され、成沢氏は満期でご辞任なさいました。お二人ともご苦労様でした。と言うわけで、会報担当者を募集中です!お力をお貸しください。

『比較文化研究』68号は暫く前に届いておりましたが、この「会報」を共にお送りするため、「紙上役員会」の終了を待たせていただいたために発送がおそくなりました。編集担当の南川先生にお詫び申し上げます。(太田記)